

Mockingbird Family™

モッキンバード・ファミリー



地域の里親ネットワークを生かした
子育て支援の実践

INTERNATIONAL FOSTER CARE ALLIANCE [IFCA]

モッキンバード・ファミリー・ジャパン



このプレゼンテーションの概要

I. モックンバード・ファミリーとは何か？

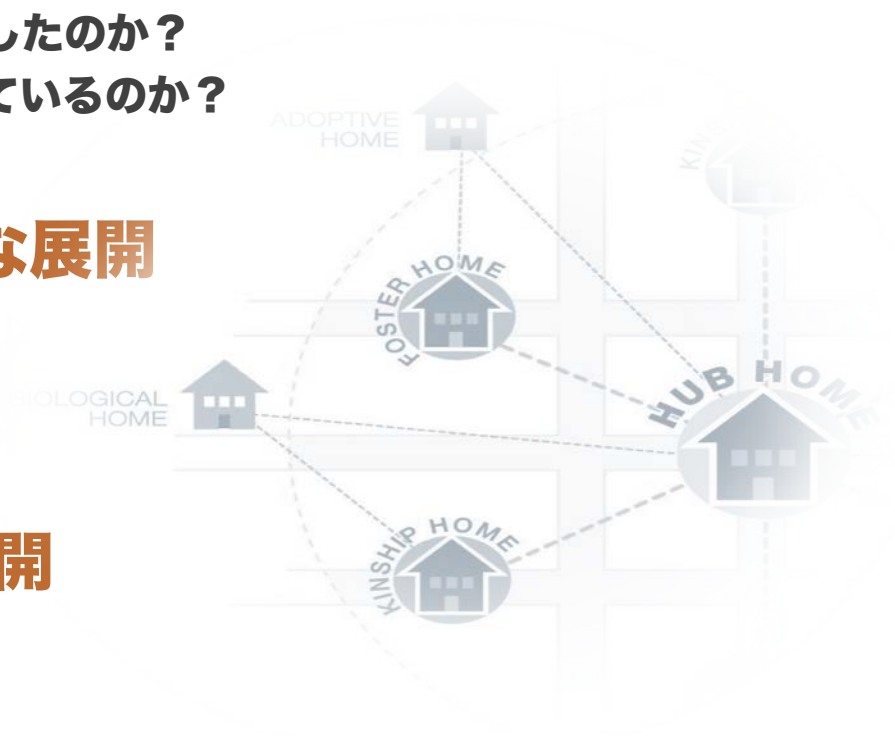
- 誰がどのような理念のもとに開発したのか？
- どのようなしくみで、何を目指しているのか？

II. モデルの効果と世界的な展開

- モデルがもたらす効果
- 日本と世界での今までの動き

III. 日本でのこれからの展開

- IFCA の役目
- 地域での取り組み



I. モッキンバード・ファミリーとは何か？

モデル開発者と、アメリカでのモデル立ち上げの背景

- ワシントン州シアトルのNPO 法人、モッキンバード・ソサエティの創業者、ジム・セオフェリスが2004年に開発
- 措置変更の上昇・里親の減少、などの問題をの解決策として、従来のフォスターケアの考え方と実践を根底から変革する養育者支援の方法を開発→それがこのモデル **Mockingbird Family™**
- セオフェリス氏は「家庭」という密室による危うさに焦点を当てた。
 - その当時、米国全土で、里親と子どもが孤立化し、子どもの安全性が脅かされる一方、養育の負担は増大するという背景があった。
- ➔ 政府の里親リクルート・研修のための予算倍増だけでは解決できない課題。児童福祉の実践そのものを見直す必要がある、と判断した。

I. モッキンバード・ファミリーとは何か？

モデルのビジョン

子どもたちに良い結果をもたらすには里親家庭への支援を向上させることが必要



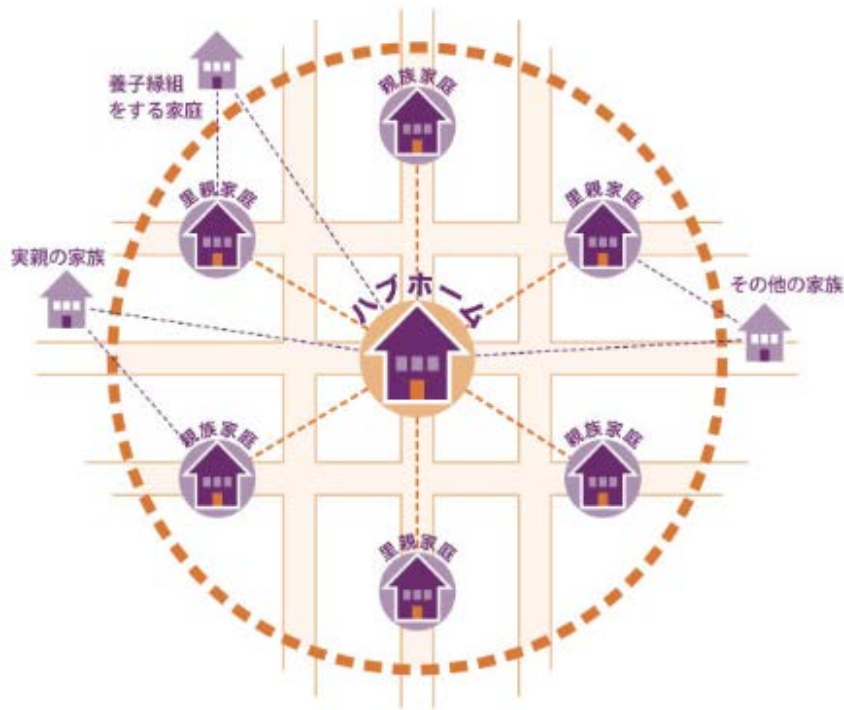
これは、子どもたちに良いケアを与える人たちに、良いケアを与えるモデル

モデルのコンセプト＝拡大家族 **意図的なコミュニティの創造**

- 里親同士、子ども同士が日常的に相談・交流することが可能（孤立化を予防）
- 他の家庭を知ることができるとともに、複数の目で子どもを見守ることができる（不適切な養育の防止につながる）
- 支援を一方向的に受けるのではなく、だれもが支援者になる
- きょうだい関係の継続
- 一時的な避難所（措置解除をしなくてもよい）
- レスパイトを通じた子どもの交流と里親の疲弊防止

I. モックンボード・ファミリーとは何か？

MFの基本構造



- 限定された範囲に住む6～10家庭（サテライト・ホーム）がグループを形成。このグループを**コンステレーション**と呼ぶ
 - コンステレーションには、0歳から18歳までの6人から20人の子どもたちが住む
- 中心となる家庭（**ハブホーム**）には2つの空きベッドをつねにもっている
- ハブホームの里親は、サテライトの里親に定期的、そして緊急のレスパイトを与える
- ハブホームを中心に毎月交流する

I. モックンバード・ファミリーとは何か？

核となる8つの理念

1. 無条件のケア
2. ケアのノーマライゼーション
3. コミュニティを基盤とするケア
4. ケアの継続性
5. 積極的な子どもの保護
6. 将来的な支援者としての実親家族
7. 文化的な関連性
8. 養育者への支援



I. モックンバード・ファミリーとは何か？

ハブホームの条件

1. 経験豊かなライセンスのある里親
2. サテライトホームに近接している
3. 24時間体勢でレスパイトを与えるコミットメント
4. 模範となる行動をとり、ピアサポートのできる里親
5. 自宅を開放して交流の場をつくる里親
6. ホストエージェンシー（担当機関）との繋がりを持つる里親
7. 地域資源に精通している里親

I. モックンバード・ファミリーとは何か？

ハブホームの役割

- 月に1度、ミーティングを実施する
- 計画的・緊急のレスパイトを与える
- 養育者のためのトレーニング, ピアメンタリングをする
- 社会的な、また地域に根付いた活動の促進をする
- 児童福祉システムのナビゲートと、地域資源の確保
- 子どもの実親ときょうだいとのつながりを促す



I. モックンボード・ファミリーとは何か？

サテライト・ホームとは



- ハブホームの近くに点在する、6つから10の家族
- 里親同士が支え合って、子どもの安全を確保する
- 家族の繋がりを創る
- サテライトホームもレスパイトを与えることができる
- サテライトホームに含むことができる家族はさまざま
 - 里親家庭
 - 親族里親
 - 実親
 - 養子縁組をする里親
 - ユースが指定した家庭
- 実親を含むことにより、子どもの家庭復帰の道を開き、家庭外措置の必要性を減らす

I. モックンバード・ファミリーとは何か？

ホストエージェンシー（担当機関）とは

通常、児童相談所や私立のエージェンシーなど、里親ライセンスを与え、子どもを措置する権限を持っている機関

- ・コンステレーションの立ち上げに協力し、増やしてゆく役目を持つ機関
- ・ベッドコストを支払う機関
- ・各家族を個別に支援する通常のやり方とは違って、集合的な支援を行える機関

その役割とは・・・

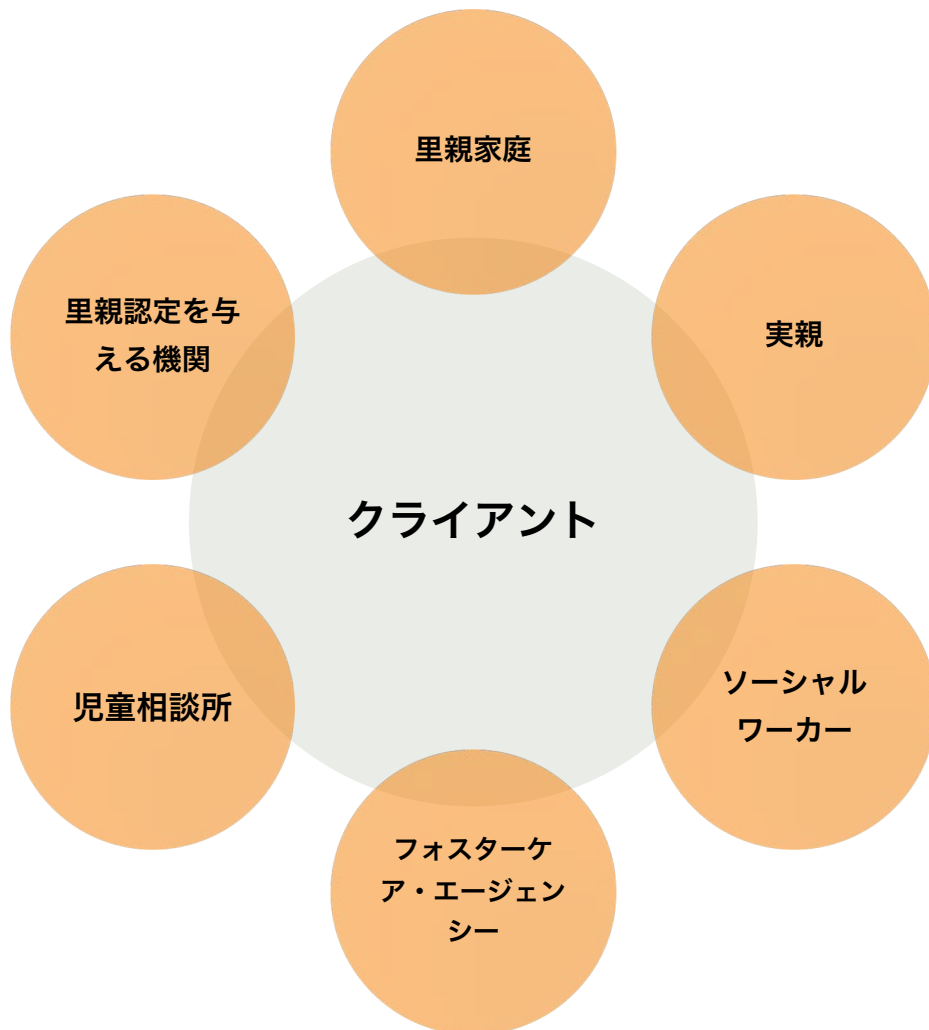
- ・コンステレーション内に1人ないしは2人の担当ソーシャルワーカーを配置して、縦断的なサポートをする。
- ・家族会議の設定をし、SWが参加して連携をはかる。
- ・効果検証に関する研究に協力し、MFの評価に関するレポートを用意する。
- ・委託不調が起きた時などの緊急の支援、日常の支援を提供し、子どもがコンステレーション内にとどまれるような配慮、協力をする、など。

I. モックンバード・ファミリーとは何か？

ホストエージェンシーの役割（2）



- **リエゾン**を選出する。ホストエージェンシーとコンステレーションの間の連絡系の役目をする。MFコンステレーション全体の管理。
- コンステレーション内全体を把握し、適切な委託をする。そのために、ハブホームと連携し、コンステレーション内の里親と子どもについて理解を深める。
- ハブホームと協力し、コンステレーション内の関係性が良好に保たれるよう調整する
- 月例会・交流会の中で、子どもの様子を把握する
- 地域の資源を有効活用できるよう、手助けする



I. モッキンバード・ファミリーとは何か

このモデルは、地域での現存の支援構造を保持しながら、進行する

モッキンバード・ファミリーの導入によって、変更がない点としては・・・

1. 児童相談所の各里親家庭への措置および支援は、現行通りである
2. 里親会に所属する里親家庭の里親会への所属や活動への参加自体は、現行通りである（活動への参加を促す効果もある）
3. 研修などへの参加（義務）は、現行通りである

II. モデルの効果と世界的な展開

モデルのもたらす効果

子どもたちが...

- 社会的養護のシステムの中で暮らす時間を短縮できる
- レベルの高い安全性のある家庭的な環境の中で生活できる
- 委託が途切れることなく、暮しにレベルの高い安定性をもたらす
- 迅速なパーマネンシーが確立できる
- きょうだいと離れずに家族との絆を維持できる
- 大人とのポジティブな関係の形成できる

ケアを離れるユースたちの自立をスムーズにし、移行期の支援の充実をはかることができる

- 里親の維持とリクルートをより効果的なものにでき。
- 里親の孤立や疲弊を防ぐことができる
- 里親に養育の満足感を与えることができる

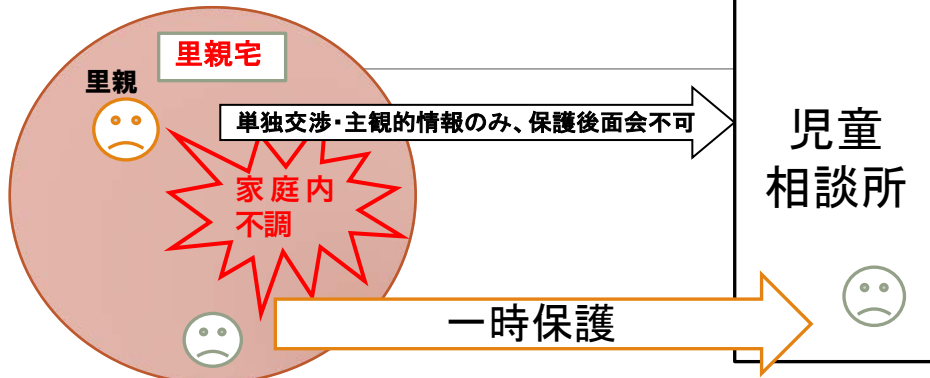
II. モデルの効果と世界的な展開

MF 里親家庭の成果

<p>安全性、安定性の高いケアの確保</p>	<ul style="list-style-type: none">• 1150人の子どもたちがMFでのケアを受ける• 無計画な委託の中断件数-15件• 立証された虐待件数-2件• 840件のパーマネンシー確立の実績• 拡大家族の創造
<p>里親維持と里親の満足感の向上</p>	<ul style="list-style-type: none">• 920の里親家庭がMFMに支えられた• 98%の養育者が「支えられている」と感じた• 99%の里親が1年以上養育を継続
<p>地域的な広がり</p> <p>米国ワシントン州、他州、および英国で広く採用。成果を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none">➤ 米国でのコンステレーション 24➤ 英国でのコンステレーション 20➤ オーストラリアでのコンステレーションが現在、進行中

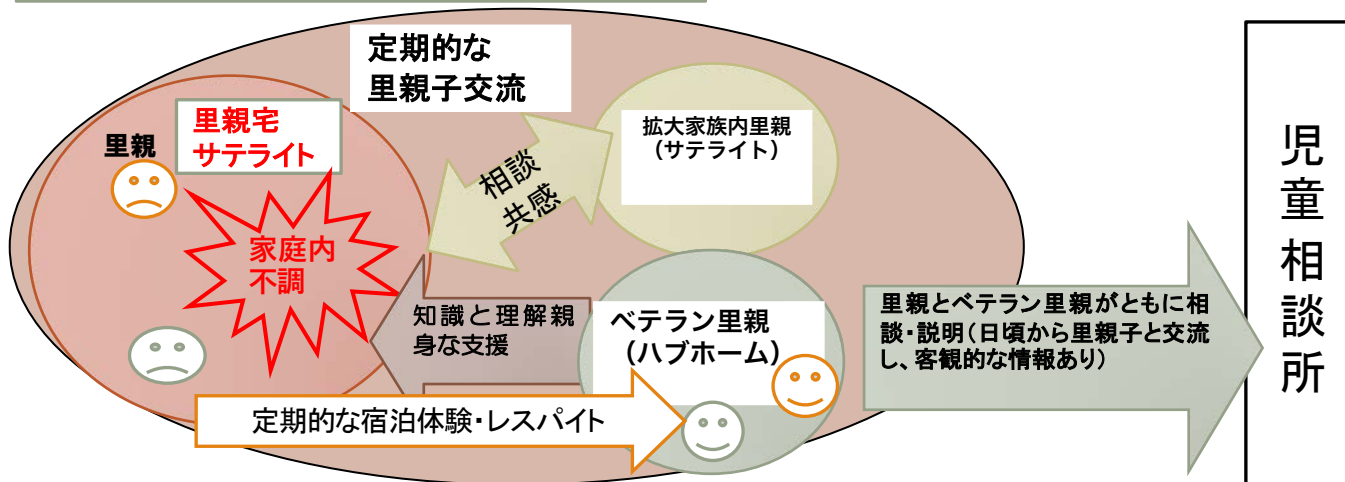
不調（反抗・問題行動など）時の里親と児童相談所との関係

現状



現状においては、里親と里子の不調が生じると、里子は児童相談所に一時保護されることが多い。その際、里親が児童相談所と単独で交渉することとなるが、里子と面会し話し合うことは困難となってしまうケースが多い。里親は主観的訴えが児童相談所に聞き入れられず、里子の喪失感と親としての無力感を強く感じ、里親継続が困難になる場合もある。

ベテラン里親を中心とした拡大家族（モッキンバードファミリー）の場合

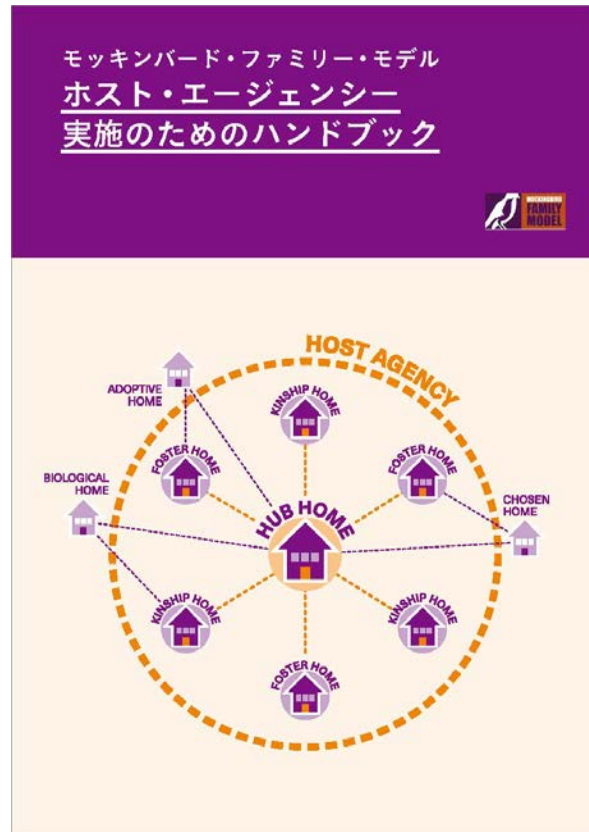


地域でベテラン里親を中心として拡大家族（モッキンバードファミリー）を作り、定期的に里親子が交流したり、宿泊体験できるシステムを確立すると、里親子のピアカウンセリング機能が強化され、不調が減少する。また不調が生じた際は、ベテラン里親が日頃から把握した里親子の客観的情報をもとに児童相談所で里親も話し合うことが可能となる。

II. モデルの効果と世界的な展開

II. モデルの効果と世界的な展開

現在までの日本での取り組み



ハンドブックの発行(2017年)

2013年

日本から7名が渡米。シアトルで、モッキンバード・ファミリー・モデルの視察を実施

大阪での世界フォスターケア機構 (IFCO)大会で、IFCA がモッキンバード・ファミリー・モデルについての発表を行う

2015年

和泉広恵 (日本女子大学) による一年間にわたるモッキンバード・ソサイエティでのフィールドワークを行う

2016年

モッキンバードファミリーモデル事業実行委員会設立

モッキンバードソサイエティのディレクターを含めたスタッフ3名を日本に招聘し、東京、水戸、大阪で講演会を実施。来日メンバーと複数地域の自治体職員、厚生労働省、日本財団等との会合を行う

2017年

実行委員会は5回の勉強会を開催

ハンドブックVol. 1 の発行

II. モデルの効果と世界的な展開

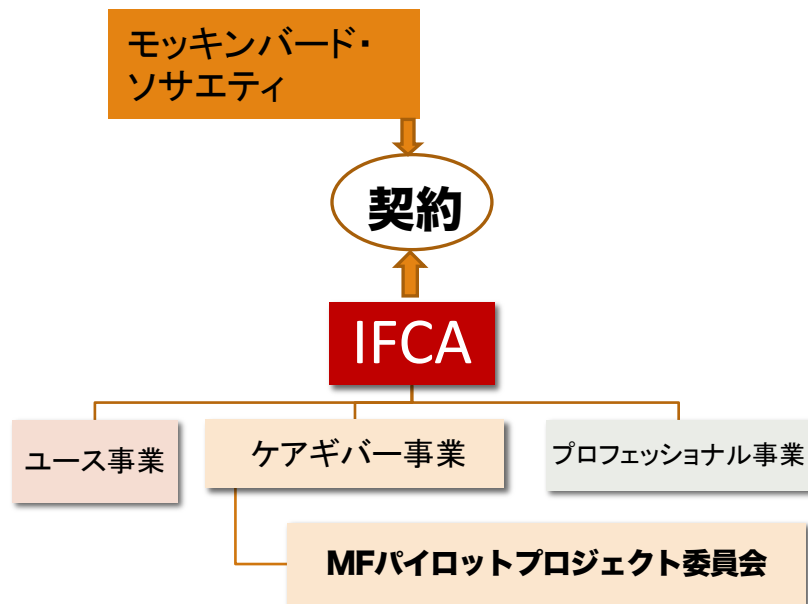
米国での研修

- 2018年5月、日本から8名の研修生が米国ワシントン州に渡り、モッキンボード・ソサエティのベテラン講師による、1週間の集中研修を受講した。
- この研修の修了書とともに、受講生8名は、日本の各地で、モッキンボード・ファミリーのコンステレーション構築をすすめることを許された。
- 地域でのフィデリティに沿ったコンステレーションの立ち上げを見守り、継続したサポートを与えるのは、モッキンボード・ソサエティとIFCAの共通の役目である。



III.日本でのこれからの展開

モデルの日本導入における IFCA の役割



IFCA の3つの事業の柱のうちのひとつ、“ケアギバー（養育者）のための事業”の下に、モックンバード・ファミリー（MF）日本導入のためのパイロットプロジェクト委員会を設置する。

□ 2018年5月、IFCA とモックンバード・ソサエティ（MS）が契約を結んだことにより、IFCA は、日本でのモデル導入の正式な窓口となった。（2022年に契約更新予定）

今後のIFCA の5つの役割：

1. 日本国内での Mockingbird Family のコンステレーションの拡充
2. コンステレーション構築の際のコンサルテーション
3. イベントの計画と実施
4. モックンバード・ソサエティと連携しながらの、効果検証にかんする研究
5. 事業資金の調達

III. 日本でのこれからの展開

いくつかの地域での パイロット・プロジェクトの取り組み

- 米国研修の参加者が、これから全国の4つの地域でモッキングバード・ファミリーに基づいたコンステレーションの構築を始めます。
- このパイロットプロジェクトについての詳しい情報や、お問い合わせは、IFCA までご連絡くださるよう、お願いします。

info@ifcaseattle.org

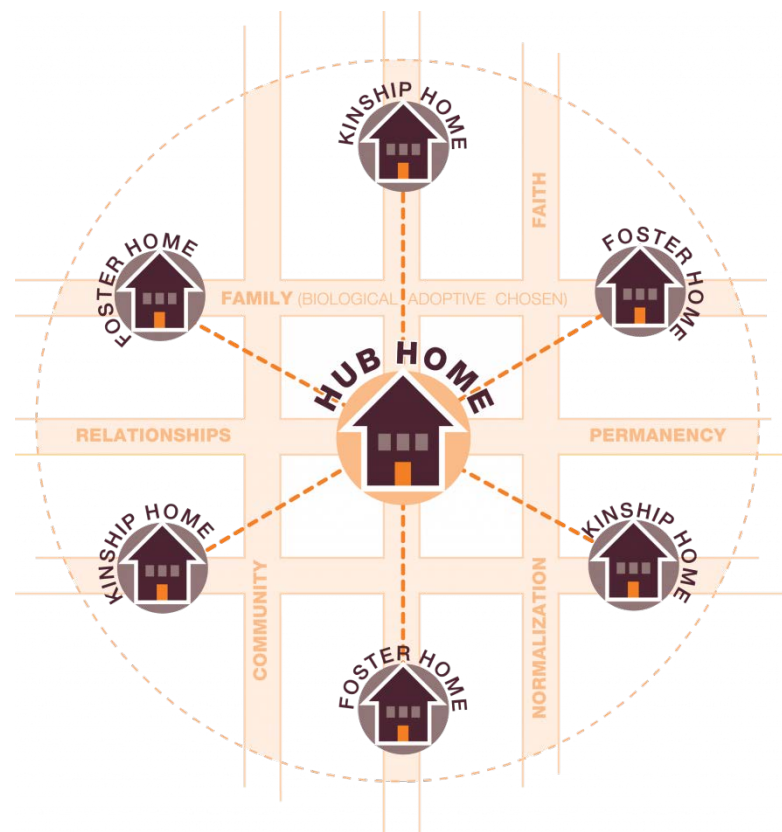


- あなたの地域でのモデル実施と運用のための資料やコンサルテーションは、IFCA にご相談ください。

III. 日本でのこれからの展開

モデル導入の道筋

1. 導入するエリアを決める。
2. ホスト機関とそれぞれの役割を決める。リエゾン（調整役）を選び、その人が中心になる。
3. 研修を行う（地域の特性、里親家庭のマッピングなどを含む）
4. ハブホームの候補をリストアップし、説明会・依頼等を行う
5. コンステレーションの選定 → Go!



プログラムが温かい家庭をつくるの
ではない。

献身的な大人が創り上げるのだ。

システムが健やかな子どもを育てる
のではない。

家族と地域が育てるのだ。

モッキンバード・ソサエティ創立者
ジム・セオフェリスの言葉

協力:

The Mockingbird Society

<http://mockingbirdsociety.org/>

里親子支援のアン基金プロジェクト

日本女子大学

西九州大学



助成：日本財団

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

スライド制作：

International Foster Care Alliance [IFCA] ©
Mockingbird Family-Japan

www.ifcajapan.org